

ノ資本金ニ配付スレハ九〇割餘ノ算程ニ當レリ
右ハ當省ニ於テ日本鐵道會社ノ會計ヲ監査セシメタル
實際ノ梗概ナリ而シテ又第一區中ノ工事ニシテ品川ヨ
リ川口ニ接續スル所ノ線路ハ其間橋梁等頗ル多ク全線
中最モ土工ヲ要セシ部分ニシテ大ニ工手ヲ費ヤシ今ヤ
漸ク落成ニ向ントスト雖モ未タ其運轉ヲ開始スルニ至
ラサルヲ以テ其營業及ヒ會計ノ實況ハ後回ノ報告書ニ
於テ將サニ之ヲ陳フルアラントス

第十七款 大藏省庶務ノ件

昨十七年間當省中ノ組織上ニ就テ更正ヲ告ケタルモノ
ハ第一主稅官ノ設置隨テ租稅關稅兩局ノ廢止及ヒ其次
ハ庶務局ノ廢止是ナリ即チ其要ヲ概言スレハ五月八日

庶務局ヲ廢シ從前該局ノ管理タリシ臨時費調査ニ關ス
ル事務ヲ調查局ノ主管ニ付シ地方稅ニ係ル事務ヲ舊租
稅局ニ移シ而シテ同日本省中ニ庶務課ヲ置キ舊庶務局
管理ノ事務ニシテ他局ノ管掌ニ歸ヤシムヘカラサル事
項ヲ處辨ヤシムルトナセリ又同月廿日第四十五號布
達ヲ以テ主稅官ノ職制ヲ定メラレ同シク二十八日ヲ以
テ租稅局關稅局ヲ廢シ更ニ主稅局ヲ置キ該兩局ノ事務
ヲ總括管理スル所トナシタリ
又昨年中當省ニ於テ事務執行上受授ヤシ公文ノ要計ヲ
舉ルニ各官省府縣ヨリ接受ヤシモノ三萬貳千四百貳拾
七件之ニ對シ當省ヨリ發遣ヤシモノ壹萬七千四百九件
又銀行會社等ヨリ接受ヤシモノ八千七百八拾五件之ニ
對シ發遣ヤシモノ千四百三拾九件其合計六萬六拾件ニ

シテ之ヲ一昨年ノ合計五萬六千六百八拾七件ニ對比ス
 レハ三千三百七拾三件ヲ増加セリ隨テ省中各局課長ヨ
 リ稟申セル回議ノ如キモ亦多キヲ加ヘ其件數壹萬八千
 百九拾四件ニシテ之ヲ一昨年ノ件數壹萬五千五百九拾
 九件ニ比スレハ貳千五百九拾五件ヲ増加セリ蓋シ財政
 會計ノ事務歲ヲ逐テ愈々其周密整完ヲ要シ就中稅務ノ
 如キハ其改良ヲ要スルモノ一ニシテ足ラス故ヲ以テ昨
 年ハ租稅關稅ノ兩局并各地租稅局出張所ヲ廢シ更ニ主
 稅局ヲ設置シタル等ノ事アリシト且ツ其他事務前年ニ
 比スレハ自カラ頻繁ヲ加ヘタリシカ為メナリ
 又昨十七年十二月三十一日ニ於ル當省官吏ノ現負ハ左
 ノ如シ

勅任官

二名

奏任官

八十八名

判任官

千三百五十名

等外及雇

六百八十四名

總計

二千百二十四名

右ノ總員ヲ以テ一昨年末ノ總員二千二百四名ニ比スレ
 ハ八十名ヲ減セリ是租稅現收ノ事務ヲ地方官ノ負擔ニ
 歸ヤシヲ以テ舊租稅局ノ官吏ヲ府縣ニ轉任セシメタル
 ニ由レリ

茲ニ當省ノ經費ヲ申報スルニ當リ亦毎回ノ例ニ沿ヒ十
 七年度上半期ニ係ル經費ノ現計ヲ舉ルニ其金額ハ總計
 六拾七萬貳千六百八拾三圓ニシテ之ヲ十六年度上半期
 ノ經費ニ對算スレハ其減スル一三拾七萬三千百九拾四
 圓ナリ蓋シ此ノ如ク減ヤシ所以ノモノハ前記ノ如ク租

稅關稅ノ兩局ヲ廢シ新タニ主稅局ヲ置キシカ為メニ其
 經費ハ彼ニ減シ此ニ増スモノアリト雖モ之ヲ約言スレ
 ハ昨年ハ一昨年ノ如キ多額ノ烟草印紙製造費ヲ要セサ
 リシニ由レリ然レモ前掲ノ計算ハ毎回陳辨セル如ク單
 ニ十七年度上半期ノ計算ナルヲ以テ之ニ其下半期ノ經
 費ヲ加フルノ期ニ至ラサレハ其増減ノ決算如何ヲ未タ
 報告スルヲ得サルナリ
 昨年間當省ノ事務ニ關シ正義以下各書記官等ノ各地方
 ニ出張セシテ左ノ如シ
 造幣大試驗ノ為メ大坂、
 高知縣外二縣下、
 愛知縣外二縣下、
 富山縣外二縣下、
 大藏 卿松方正義
 權大書記官 宍戸 昌
 少書記官 戸叶正明
 少書記官 横瀬文彦

福島縣下、
 長崎縣下、
 群馬縣下、
 米國紐育、
 兵庫縣外六縣下、
 滋賀縣下、
 福井縣下、
 長野縣下、
 三重縣下、
 京都府外一府五縣下、
 東京府外八縣下、
 長崎縣外五縣下、
 埼玉縣外七縣下、
 御用 掛柳田養拙
 權少書記官 山本豊躬
 御用 掛金子彌平
 全
 權大書記官 宍戸 昌
 少書記官 斯波有造
 御用 掛牛場卓造
 御用 掛柳田養拙
 少書記官 葦原清風
 權大書記官 成川尚義
 權大書記官 佐伯惟馨
 少書記官 山内芳秋
 權少書記官 金田清風

福島縣外六縣下、
兵庫縣外五縣下、
大坂造幣局并京坂地方及三重縣下、
大藏卿隨行大坂、
京都府外一府三縣下、
群馬縣外六縣下、
常陸下總地方、
大坂府下、
大坂府下、
山口縣下、

權少書記官山本誠之
權少書記官伊藤元祐
權少書記官得能通昌
權少書記官谷 謹一郎
權大書記官加藤 濟
權大書記官一川 研三
大書記官石渡貞夫
御 用 掛柳田養拙
權少書記官藤村 胖
權大書記官大野直輔